

川越キャンパス記念講演会

昭和62年10月27日（火）  
川越校舎講義棟

# 「21世紀に向けての埼玉県のヴィジョン」

埼玉県知事

畑

和

## 一、はじめに

ただ今ご紹介をいただきました知事の畑和でございます。本日は東洋大学創立三周年を記念する講演会にお招きをいただきまして、心から感謝をいたします。

東洋大学は、先ほどお話がありましたように明治二十年に優れた哲学者であり、しかも仏教育家でありました井上円了先生が「諸学の基礎は哲学にあり」という建学の精神を掲げられまして、東京本郷に哲学館を創設したのがはじまりと承っております。以来百年を経過した現在、文学部、経済学部などの六つの学部と大学院を擁する総合大学に発展したことも、今承りました。

とりわけ工学部の拠点で、甲子園球場が八つも入るといふ雄大なスケールのこの川越キャンパス、あるいは文科系、教養課程のための最新の朝霞キャンパスはいずれも埼玉の地に立地をみておりまして、本県にとりましても東洋大学の発展は非常に心強い限りです。

今埼玉県には大学がいくつあるかと申しますと、埼玉大学一つが国立ですが、それを含めて二十六校ございます。そのほかに短期大学が十八校、合計して四十四校というのが埼玉県に現在立地している大学並びに短期大学の数で、数としては相当あると思っておりますが、単科大学が多いのが特色です。

昔から「一年の計は麦を植えるにあり、十年の計は樹を植えるにあり、百年の計は人を植えるにあり」ということがございますが、東洋大学の

この百年はまさに人材の育成の歴史でありまして、大学関係者の方々に深く敬意を表したいと思います。

余すところ十三年ほどで二十一世紀を迎えるわけですが、新しい時代に向けて東洋大学がますます今後発展されることをお祈りしたいと思えます。

さて今日は私からは、「21世紀に向けての埼玉県のビジョン」と題しまして、本県が進めている二十一世紀のための施策について、代表的なものをいくつかお話を申し上げたいと思います。

## 二、二十一世紀は埼玉の時代

私は常々二十一世紀は埼玉の時代であり、埼玉県はこれから大いに飛躍すると申し上げておりますが、なぜそのようなことが言えるのか、その根拠は何かということからまずお話ししたいと思います。

それは埼玉が発展するための条件が整ってきたということで、埼玉には今、天の利、地の利、人の利と三つの利があるということを私は言っております。

中国の孟子は皆さんご存じかもしれませんが、「天のときは地の利に如かず、地の利は人の和に如かず」という有名なことばを残しております。私はそれに倣いまして、三つの利を唱えております。

まずその三つの利のうち、天の利というのは埼玉県についてはどうなんだということですが、かつての高度経済成長時代には港のあることがどうしても発展のための重要な要素でした。港がないというのは当時相当のデ

メリットだったのですが、現在の情報化社会、脱工業化社会においては港は必ずしも必要ではなくなったと思っております。

むしろ重厚長大産業から軽薄短小型産業への転換は、内陸県に対してチャンスをもたらしているのではないかと考えるからです。現に昭和六十年の本県の工業製品の出荷額ですが、十二兆九千十六億円です。ほぼ十三兆円に近いんですが、全国四十七の都道府県のなかで第五位を占めております。

昭和六十年は六位でした。六十一年には兵庫県を抜いて五位になった。ちょうど人口の順番と同じです。ということで天の利がある。これからますます軽薄短小の時代になるから、内陸県でも港がないことは必ずしもデメリットではない、これから大いに発展する余地があるというわけです。

次に地の利です。本県はご承知のように、新幹線が二本通っています。大宮で合流して、大宮から上野まで行っているんです。こういう県はほかにございません。東京は別ですけれども、ほかではこういうところはない。それから高速道路も三本備わっております。東北縦貫、関越、常磐もこの間でできました。常磐道ができて、その南のほうに首都高速・葛飾線というのができましたから、青森のほうからずっと九州のほうまで行けることになりました。そういう点では交通の要衝にあるということが言えると思います。

そして、首都東京と境界線が一番長い。ほかのところを言っては悪いけれども、千葉のほうは浦安と市川だけが入口で、あとは広いんですけれども、奥がないんです。行き詰まりは海ですから。北のほうは茨城があるきりで、茨城のほうも何と言っても常磐でこっちに来てしまう。最後は埼玉

を通らなければならないということになります。

そういうようなことで、埼玉県は首都東京とも接する面が非常に多い。交通の要衝で、また首都圏の北の玄関口ということにもなります。

ところで、土地問題に現れておりますように、東京への一極集中が今大変非難をされております。これは前々からわれわれも警告を発しておりますが、政府が怠慢であったというのは間違いない事実だと思います。きっかけとなったのは、清算事業団による旧国鉄の用地の処分です。それをするだけ高く売って、国民の負担を軽くしようという真意はわかるんだけど、一般競争入札が原則である、都道府県などの地方自治体に対する払い下げというのは、随意契約はよほどのことでなければやらないというのが、国鉄の清算事業団法の規定するところです。

ところがあのときには、恐らく政府のほうでも土地問題はこうなるなどとは思っていなかったんです。そしてああいう法律を決めた。そして国有地を売ってしまった。競争入札で。司法研修所などというのは大京観光に高い値で売りました。それから農林省の官舎なども競争入札で高い値で売りました。あれが民活だと思っているのです。あれは本当は民活ではないですね。本当の民活というのはあとで申しますが、埼玉県の大宮でやっているソニックスティアーのやり方が本当の民活だと思っておりますが、ああいう見解、考え方でやったから甘すぎたと私は思います。

それがやはり地価の高騰の契機になったということは争えない事実であると思います。したがってこの間の九月九日に都道府県知事会議がありました。そのときに私と東京都知事でその問題を質問したのです。そうしたところ、総理は大変前向きな答弁をされました。

都道府県がこの清算事業団所有の土地に対して計画を持っているときにはそれを優先して払い下げる。払い下げの値段はしかるべく両者で話してもらいたい。ばかに安くやるわけにはいきませんがという話でございました。それが原則であるとおっしゃった。

ところが生産事業団法には逆に書いてある。今さらこれは変えられない。この間、土地臨調が答申を出した。その当該のところを私はよく調べてみた。そうしたらちっとも前進していない。むしろ逆戻りということになったから、しかたがないから当分の間競争入札はやめだとしてあるだけなのです。この辺の矛盾をどう解決するのか。

ですから私は、どちらが一体本当ですか、土地問題は緊急の政治的課題である、したがって総理がそうした政治的な見解を表明したのであるし、政治的、行政的なあれを表明したのであるけれども、生産事業団法にはこう書いてある。それは動いていない。その矛盾をどう解決するのかということでは質問したいと思っているわけです。

話がほかへそれましたが、本論に戻すようにいたします。いずれにしてもそういう点で地の利がよいということが、埼玉県の一番目の利だと思えます。

それから人の利について申しますが、今年の四月、県の人口は六百万人を突破いたしました。現在六百五万人ぐらいになっていると思っております。これは東京、大阪、神奈川、愛知に続いて全国で第五番目です。また将来の人口については厚生省の人口問題研究所の推計によると、昭和百年、すなわち紀元二千二十五年には本県は愛知、大阪を抜いて第三位で九百二十七万人になると見込まれております。

予測によると神奈川県が第一位、第二位が東京、第三位が埼玉ということになるようです。これは将来のことだから必ずしもわかりませんが、人口問題研究所が推計しているのですから、でたための数字ではないと思います。

さらに人口が多いだけではなくて、非常に若々しい、バイタリティーに富んでいる県である。それというのは、六十年国勢調査の結果によると県民の平均年齢は三十三・三歳でした。これは沖縄について二番目に若い。また六十五歳以上の高齢者の占める比率は七・二％、全国平均は一〇％ちよつと超えていると思いますが、この点では全国で一番比率が少ない、高齢者の割合が少ない県が埼玉県だということができます。

ということですから、非常に人口も多いし、若々しい人が多いということ、人の利があると申し上げているのです。

以上三つの点から考えまして、二十一世紀は埼玉の時代であると申し上げているわけで、それが根拠です。

そこで次に、二十一世紀を目指す本県の施策のなかから特に重要なことについて紹介したいと思います。

### 三、ユー・アンド・アイ・プランの推進

先ほども学長さんのほうからお話でしたが、ユー・アンド・アイ・プランの推進が第一に挙げられると思います。このユー・アンド・アイ・プランというのは実は、もともと埼玉県中枢都市圏構想というものです。都市圏の「けん」はエリアです。

これは埼玉県がへそがない、心臓がない。それは埼玉県の最近の人口増加の傾向、今までの歴史的な関係からそうなってしまっていて、高度経済成長で軌道沿いに、あるいは道路沿いに東京が膨張してきたからであると思います。

したがって、市などの境がほとんどわからないぐらいに連担しております。一番人口の多い市が川口市です。これがこの間四十万を超えました。それから浦和、大宮が三十八・九万というところです。川越とか所沢とか上尾が二十八・九万ぐらいでしょうか。そういうことで、ずば抜けて大きな市がないということです。したがって中心がないということです。

そこで中心を作りたいという考えから、埼玉中核都市圏構想を考えました。急に合併などというのも難しい。

したがって、ゆるやかな市の連合で行こう、連合都市で行こうということとを考えました。

それで埼玉圏がリーダーシップをとりまして、五つの自治体を合わせてその方向でやろうということに決まったのが、中核都市圏構想です。浦和、大宮、上尾、与野、伊奈のそれぞれの頭文字を英語のアルファベットに並べてみると、少し余計な文字も入っていますけれど、ユー・アンド・アイとなるのです。

それで最近ユー・アンド・アイ・プランを、やはり言葉だから英語でいくほうがいいと思って、最近はそのらを主にしてユー・アンド・アイ・プランと言っています、これの名前があちこちに響いております。

文化施設をはじめとする高次の都市機能を集積した中核都市圏をつくらうということで、東京への過度の依存から抜け出すとともに首都圏の北の

拠点としての首都機能の一翼を担うというものです。

たまた国土庁が中心となりまして、政府のほうでも首都改造計画というのがありました。首都改造計画というのは、一極依存はいけない、多極多圏型にならないといけないということになりまして、それは私たちも構成員になっている俗にいう首都圏サミット、正式には六都県首脳会議、これは年に三度ぐらい会合します。一回と二回目は埼玉県が担当しました。もう八年前です。

その考え方と国土庁との間でキャッチボールしまして、国土庁がほぞを固めてそういう構想を打ち出したというのが首都改造計画、それに基づいてつくられた第四次首都圏基本計画、それを基にしてまたつくられたのが、今年になってできた例の四全総です。

そのなかにそれぞれそういう精神が謳いこまれてあるというわけです。

首都機能の一翼も担う、業務核都市として埼玉県の場合には浦和、大宮地区という表現になっています。

そして副次核都市というのが埼玉の場合には熊谷、深谷。この辺が副次核都市という表現になっております。

東京の場合はどうかという、立川、八王子。神奈川県については横浜、川崎。千葉県については千葉市、成田、それから、木更津ですね、この三つの三角軸構想という、英語でトライアングル構想と言ってますが、これとユー・アンド・アイ・プラン、みなとみらい21なんかがいち対するような業務核都市になるわけです。

その業務核都市が、業務的な仕事をやる、あるいは、経済的な、そういうものの拠点になろう、それで東京の役割分担していかう、分散を図って

いこう。

それから国の行政機関も東京に必ずしもいる必要のないものがたくさんあるのです。それを一つ分散しようではないかというので、遷都論になれば別ですが、展都論に立てば、やはり周りの首都圏に分散するのが当然だということになります。

そうなりますと、〇〇公団だとか、あるいは、〇〇省の関東なんとか局とかいうものがありますが、こんなものは東京にわざわざいる必要はないのです。みんな各地に分散させればいい。しかも、通っている人はみんな周りから通ってきているのです。東京に住んでいるのではないのです。したがって、埼玉県からたくさん通っている人、そういう官庁を調べて、それで一番通っている人が多いのが埼玉県だったら、その官庁は埼玉県に引っ越してくる。神奈川なら神奈川に引っ越すということが妥当である。

埼玉県ではいちいち一つの官庁をつくるのは容易ではないから、それを受け入れるよう合同庁舎をつくらう。場所を提供して、合同庁舎を用意しているから、さあいらっしゃいと言っているのです。

ということ、これからユー・アンド・アイ・プランが大いに重要になってくると考えます。

その第一のプロジェクトが、産業文化センターという名前で呼ばれておりましたが、今建築中でありまして、愛称ソニック・シティーというものです。これは今年いっぱいできあがります。来年三月までにいろいろ諸準備をいたしまして、四月八日にオープンいたします。

二・一ヘクタールの用地の上に都市計画上の特定街区に指定してもらいました。したがって、二・一ヘクタールのところに三十一階の建物が建つ

ということになりました。

私は埼玉県全部から見えるような高い建物を建ててくれという考えでそれをやったのです。それで、二・一ヘクタールにはまるにはどうしたらいいのかと言ったら、そういうことであれば三十一階の建物が建つということとでそれでやってもらったのです。

その建物は、私のほうでは、土地を貸すわけです。私のほうが全部建てるではありません。私のほうでは土地を貸して、同時にその建物を建てるなかの一部を地主が建ててもらおう。ホール部分とか、そういう公共部分がいろいろあります。それは私のほうで、向こうで建ててもらって、それで、等価交換で、お金を払うということでございます。

私のほうは権利金を五十億円もらいまして、それでそれを差し引きしますから、割合に安く、公共部分も手に入ることになりました。三百六十億のプロジェクトができたわけであります。

私はこういうものが本当に民活だと思っております。権利金はもらいますけれども、土地の売買はないから、したがって、地価が表面に出ることはないわけです。そういうことでやりました。これは埼玉方式ということで全国で初めてのやり方です。

私は中曽根総理にこれを建築する前に、総理官邸に行つて、いろいろ説明してきました。だいぶ耳を傾けておられました。お耳に入っているはずでございますが、これは埼玉方式と俗に言われる。全国からいろいろ見学にくる人がたくさんおります。

これはしかも、提案協議方式という方式でございます。そこでみんな設計などをしてもらつて、それを競争するわけです。それで、このグルー

プのものが一番よろしいということになったら、そのグループが県と契約をして、土地を借りて、その上に建物を建てるということです。それで、その建物の下の部分は民間のものになる。その提案者のものになる。その提案者が適当に貸せばいい。私のほうは十一階までが公共部門である。ホテルの部分もそうだ。ホテルも来る。ホテルも別棟で、使いよくなっているというような形のものができました。

これは成功だった。もう既にテナントもほとんど埋まってしまっています。地下四階、地上三十一階です。高さが百三十七メートルでございます。このソニック・シティーでは、来年オープンですから、来年中に、文化人の婦人の世界大会をやろうという案ができておりますが、それも恐らく実現することになると思います。

それから、オープンの翌年の六十四年四月には、ここで世界盆栽大会をやろうということになりまして、日本盆栽協会からもう申し入れがあります。して、恐らく県と共催になると思いますが、大宮には盆栽町がございます。日本の盆栽の中心は大宮という定評があります。盆栽ということばも、ご承知のように、国際語でございます。そこで、大いに売り出そうというので、やっています。

一昨年でしたか、私は、外国の大使たちを私の公館に招待しまして、ここで、盆栽のデモンストレーション、いろいろ手を加えて、こう曲げたりなどするものを見て見せたり、一緒にやってもらったりして、大変好評を博しました。

大宮操車場の跡地につきましても、今にらみ合いということになっていきます。先ほど話したようないきさつがございます、今にらみ合いであります。

ます。どういう結果になるか、これが一つの大きなこれからの勝負だと私は思っているわけです。

#### 四、新しい交通システム

次に申し述べたいのは、新しい交通システムの件についてです。

一つがリニアモーターカーです。大宮、成田間を直結するリニアの建設を国家的プロジェクトとして行うように、私は提唱いたしております。成田が何としても遠すぎる。

成田を使わなければ外国に行けない、帰れないわけですが、それが、あまりにも首都東京、あるいは近辺と遠すぎるのです。成田は欠陥空港と言ってもよろしいくらいだと思います。世界の国であんな近郊の大都会から遠いところはほかにありません。むしろ、国辱だと思うのです。そういう国辱を回復するためには、やはり早くアプローチ、アクセスすることが必要だというふうに考えました。

そこで、新幹線が通ったから、大宮から横とびに行くのがいいのではないかとように考えました。北のほうから来るのも、南のほうから来るのも、例えば上野から大宮まで新幹線でわずかに二十分です。上野から東京まで、いずれ間もなく工事ができます。半分くらい投資しているのですから。そうすると、東京からも来れる。そうすると東海道線とつながる。

私は将来は新横浜発の東北新幹線、あるいは、上越新幹線が出るようになるだろう、あるいは、大宮発の東海道新幹線が走るのではないかと思っています。

したがって、新幹線のこの快速と、今言ったりニアの快速を利用すれば成田へ一時間以内で行ってしまう。自分のところから一時間ぐらいで行ってしまうということになると思うのです。

これは国家的プロジェクトでなければ無理ですね。ただ、提唱して、それを実現化させようと思って、いろいろ私は、JAPICという経済団体、斎藤英四郎さんが今会長になっていますが、あの人が経団連の会長になる前から私は彼にアプローチしまして、彼の新日鉄の会長室に乗り込んで、それでかけあって、了解を得ました。それで、JAPICでも、そのために十数社のワーキンググループをつくって研究してもらった。

われわれの研究を土台にして、それを裏づけるための実際の経済人が計算したもので調べてもらった。そうしたら、結局は結論は大変有望である。これはペイできる。国の国家的な補助制度でも入れば、もうほんとうに間もなくペイできる。そうでなくても、一定の日時でペイできるというような結論をもたらしてくれたのです。

これが大宮、成田間のリニアモーターカーであります。あとでまた牧野さんがお得意の磁石の権威者でありますから、恐らく超伝導の話などをされるのではなからうかと思えます。

牧野さんは私の県の相談役なのです。相談役になってもらって、ちょっと意見交換をしているのですけれども、先生がおっしゃると思います。が、先生がこの間著した『超伝導』という本。超伝導の関係で本を逸早く出されました。その本を私のところへ送ってこられた。それを読んでみましたら、その中のリニアモーターカーに関する超伝導の活用の問題。常温時でもうまく成功すれば、これはお金はあまりいらぬ。ヘリウムは高く

つくから、大変なのです。

その超伝導の関係で私はやりたい。

これからは交通機関は低速と高速とを問わず、いずれもリニアモーターカーの時代がやってくる。二十一世紀はまさに交通機関はそうだと思っている。

ところがこれに対する国の対応はきわめて遅い。もうHSTはドイツの技術のライセンスを買って、それを基にして改良して、それがもうラスベガスへ行ってしまうそうです。新聞でご覧になった方がいると思いますが、第一号がラスベガスへ行ってしまうんです。

あそこへ別会社をつくって、賭博場と町の間をつなぐんだそうです。七キロだそうです。七キロを三分いくらかで行ってしまうそうです。時速二百何十キロで走れば行く理屈になります。国鉄の場合は五百キロ出ますから、今すでに四百キロは大丈夫ですから。早いのは国鉄の方式がいいと思いますが、この国鉄方式も下手をするとアメリカへもっていかれてしまう。

というのは、フロリダの州の知事が私が乗る前に乗ったんです。乗ってみて、これはいいというので、フロリダのオーランドという飛行場とディズニーとの間の輸送にはもってこいだ、ぜひ持っていきたいという意向を表明しています。

だから、日本の行政機関、政府のほうがもう少し早くそれに対応しないと、せっかく技術者が研究し、時代も要請しているのに、それに対応できないような体制をとっているのが日本の政府であると私は思っています。

これを常に申しているんですが、なかなかききめがない。ようやく去年の終わりごろに、国土庁と運輸省と建設省の三者によるリニアモーター



カーの研究委員会というのができました。八十島さんが委員長ですから八十島さんにもこの間うんとハッパをかけておきました。ぜひそういう姿勢を国自身がとらなければだめだ、地方自治体をつついついてやっているようではしょうがないではないかということを、実は言っているわけです。

リニアモーターカーにつきましては、あちこちから、北海道は千歳空港から札幌、山梨が東京、山梨、愛知、大阪経由のものがあります。これは東京エクスプレスともいうので、金丸さんが中心になってやっています。

これは実現性が相当強い。これは距離が相当長い。しかし、牧野昇さんが書いた『超伝導』という本のなかには、そのなかで一番実現性の早いのは埼玉県知事が唱えている大宮、成田間ではないかと書いてある。

これは私も満足したのですが、ただこれからがなかなか難行なんです。その次が金丸さんのやっているあれだというわけです。金丸さんとも、お互いに競争路線ではないよ、お互いにリニア熱を高めようではないかとこの間も話をしてきました。

それから新潟県的小千谷、上越、それから九州の大分、宮崎といったところも、そういう企画があるようです。

超伝導でも今度どんな新しい物質が出てきて、常温でもできるということになれば、電力の缶詰にもなるし、これは牧野さんが言うでしょうが、電力もロスなしでやれるだろうし、非常に安上がりにつくと思います。したがって二十一世紀はまさに超伝導の時代であり、かつまたリニアに関しては浮上式の、高速のリニアの時代であると申したいと思います。

また低速の場合は埼玉県内で活用できる。これは非常にいいと思います。所沢、大宮間あたりは道路の上を走るといふことになれば、浦所線は主な

ところは二十二メートルありますから、その上にインフラをつくるとよろしい。用地費がかからない。地所が高いですからね。用地費がかからないからこれはいいと思いますよ。

自動車だけが天下ではないです。一人ひとりのパッセンジャー、乗る人がやはりお客なので、これからはそういう配慮を地方自治体の長はやらなければいけない。自動車で来いなどといっても自動車に乗れない人もいますし、お金の関係もあります。やはりそういう配慮はこれから必要だと思っております。

次に申し上げたいのは、荒川をめぐる水上交通の問題です。これも新機軸で、今まで省みられなかった川、特に荒川。利根川、荒川がありますが、埼玉県の真ん中を流れているのは荒川です。この荒川がもと幕府の時代、それから明治の半ばごろにかけて相当便利だったんです。それでも足りないで、新河岸川がありまして隅田川に通じていた。舟運の便で荒川と一緒に走っていたという歴史的なこともあります。

そういうことですから、今まで省みられなかった。その上、川が邪魔だった。川が邪魔だったから、次々と道路や鉄道が通りました。私はこれを企画する前に、試みに荒川放水路をモーターボートで下ってみたんです。そうしたら驚くなかれ、浦和の秋ヶ瀬から東京湾まで道路と軌道の橋が三十六もある。まさに川が邪魔だったんです。したがって橋が低いんです。下のことなど構ったことはないというので低くやってしまったんですね。

本田宗一郎さんが「あんなことだからだめだ」と言っていました。本田宗一郎さんも私も相談役なんです。彼にその話をしたら、「それだから日本はだめだ。橋を架けるならこういうふうに架けなければだめだ」と言う

んです。そうすれば下が自由に通れるけど、そういう見通しをもっていなかったということが残念ですが、とりあえず埼玉県ではまず人間の輸送をやることにしました。次が貨物の輸送です。その次の第三段階は秋ヶ瀬の段差があります。あそこに水の供給の関係で利根川から武蔵水路を使って、荒川へ落として、それから上水場へ持っていくって、朝霞の上水場で上水したものを東京に送っているんです。東京の上水場が朝霞にあるんです。

そういうことで段差があつてためておくんです。それを乗り越えなくてはならないのだから、それをどうするか。これは簡単で、パナマ運河式でやるんです。浦和の昔の遺跡がありますが、それと同じようなやり方でパイパスをつくってやれば溜めない。それで上に上がっていくことができるということで、第三段階はそれにして、いずれにしても荷物を運んで、集めて、そこで川を下るといふわけです。鉄鉱だとか石炭だとか、あるいはセメントだとかの重いものにはもってこい。それから石油、ガソリンです。これも便利だ、危なくない。陸上だと時間がかかつて、しかも危ない。そういうのは川で運ぶということにしたいものだということで、荒川の水運を考えております。

今すでに、人間を運ぶほうは三十回ぐらいは民間と一緒にたつてテスト運行をやっております。成果は相当よろしい。今のうちにはレクリエーションに使ったり、あるいは学校の生徒の遠足、そのなかで時間が相当かかりますからそこでいろいろ研修をやったりすることにも適当だろうということをやっています。秋ヶ瀬の橋のところに、県で栈橋を予算をつけてやりました。これをみんな、民間にも使ってもらおうという姿勢です。

昔の大動脈の再現という夢を持っております。

もう一つが地域航空です。コミユニター航空。これも当面はヘリコプター、将来は小型航空機ということで考えております。ホンダエアポートが川島町、桶川の辺にありますので、これを活用して埼玉空港をつくりたい。それでそのまま仕事はホンダに委託するということにすれば、ホンダも喜ぶし私のほうも埼玉空港というのいい。

滑走路もこれから恐らく、日本で開発した飛行機ができれば、もう飛んでいますけれども、試験が完了して、あれが就航すれば、急に上がったリ急に下がったリできます。ジェット噴射機の方を変ええるのですが。そんなに滑走路はいらないけれども、もし足りないならば延ばせばいい。そういうことはわれわれのほうでやり、あるいは公道からそこへのアプローチの道路を県でつくってやるというような形にしたいと考えております。

それからヘリコプター基地を北のほう、秩父、県北地方に設けるように補助を今しています。千葉あたりはもうすでにつくっています。浦和にも県のヘリコプター基地があります。しかしもっとヘリコプターをまとめて、そこで駐機させるように、東京の海の縁にありますね。あれと同じようなものを埼玉につくりたい。そこへずっとヘリコプターなどをまとめて駐機させて、駐機料を取ればいいんですから。そういうことをやりたいと考えています。災害時などにはどうしてもこういうものが要です。

## 五、テクノグリーン構想

次にテクノグリーン構想について申し上げます。テクノグリーン構想とはどういうものかという、テクノというのはご承知のとおり技術です。

ハイテクのテク。グリーンは緑。「緑のなかにハイテクを」ということで、わざわざ東京都心から五十キロ圏以遠を選んだわけです。

近いところはもういっぱいですし、むずかしいし、また過疎過密を解消するためにも都心から五十キロ以遠がいいだろう。そして五つの地域を指定しました。その計画を第一次としてこの間立てましたが、自然との調和をはかりながらそうした先端技術産業や学術研究機関を導入して、雇用の場の創出とか地域経済の活性化など、総合的な産業振興の促進を目指していくつもりです。

比企、秩父、児玉、大里、利根という五つの地域です。利根だけはちよつとわからないかもしれませんが、利根川の縁ということで行田、加須、羽生、栗橋の辺です。その辺を利根地区と申しまして、それも一つの地域として、全部で五つのエリアを設けました。

比企エリアについてはテクノロジセンター、秩父エリアについては人材育成センター、児玉エリアについては技術トランスファセンター、大里エリアの場合はテクノグリーンセンター。大里はちょうど真ん中ですから、そこへ一つ全体のテクノグリーンセンターを造りたいと考えております。

利根エリアではデザイン・コンベンションセンターという名称の拠点施設というように、それぞれ各地域でみな相談してやって、今整備を進めております。

## 六、二十一世紀へのプロローグ——ビッグ・イベント

次が二十一世紀への序曲、プロローグとも言うべきもの、ビッグイベントについて申し上げます。

埼玉県では今、毎年予定しているイベントがございます。今現在やっておりますのが、グリーンハーモニーさいたま'87です。これは主会場が大宮公園でして、サテライト会場が川口、浦和、大宮にあります。

十月三日からオープンいたしました。十一月十五日までの四十四日間開催です。

すでに十月二十六日、昨日現在で約九十三万人入っております。サテライト会場を入れてです。百万人を想定しているのですから、もう百万人近くなりました。ですから二百万近くなるのではないかと思います。九十二万九千二百九十九人というのが昨日現在の入場者です。

これは各県を回って歩くということで、埼玉県は第五回を引き受けました。非常に短い期間でしたが、素人の県の職員が中心でよくここまでやったものだと感心しました。この間私も行ってきまして、一回目はオープンするとき、二回目は浩宮様がおいでになったのですとお供した。

何といっても私がトップで中身をよく見ないのではしょうがないというので、二十四日、たまたま日本シリーズの始球式が雨で中止になってしまいましたので、途中までいって止めになってしまったから、それでハタと考えた。こういう雨の日にこそ、細かくゆっくり見れるだろうというので行きました、長靴にはきかえて見て歩きました。全部を見て歩きました。

たいへん工夫しております。業者の方もたいへん協力してくれまして、毎日入れ換えをやっています。非常に好評でございました。私は成功したと思っています。

その次の、来年のイベントですが、これは皆さま割合ご承知かもしれませんが、さいたま博覧会を熊谷で開催いたします。来年の三月十九日から五月二十九日までの七十二日間です。これはたまたまソニックスティーができたがってオープンするのが四月八日ですが、三月にできあがるということで、それに歩調を合わせて博覧会をやるのではないというのが発想の元です。

これが具体化しており、場所は熊谷市を選びました。県営スポーツ文化公園をつくろうというところの場所でございます。二百万人を想定しております。三笠宮崇仁親王殿下、お父さんのほうの殿下です。この三笠宮様と私は戦争中に南京の同じ司令部にいました。南京会というのがございますが、毎年一回宮様を囲んで南京の総司令部にいた人間が全部集まって、運転手もいれば女性の交換手もいる、いいお年になっていますが、そういう連中がみんな集まって、宮様を囲んで一日やるんです。

毎年やっているんですけれども、この間お願いしましたら、快くお引き受けいただきました。その後手続きをちゃんとしまして、三笠宮様が名誉総裁にご就任いただくことになりましたして発表いたしております。

前夜祭と開会式にご臨席の予定でございます。前売り入場券を五十万枚もう発売済みですが、目標は百二十万枚売りさばこうというわけです。二百万の予定のところに百二十万を前売りしてしまおうということですが、ご協力をお願いします。

出展企業、団体等は当初計画の二百五十を上回る約二百八十は決定済みです。最終には恐らく三百を超える見込みです。やはり各企業にも大変金入りの時期で気の毒なんです。グリーンハーモニーがあつたかと思うとまた博覧会があるしで気の毒なんです、やはり埼玉県は大きな市場なんです。

したがって乗り遅れていけないという気持ちがあるものですから、相当犠牲的にみんな協力してくれました。ですからまとまったものになるだろうと思っております。

次に再来年は何かと申しますと、国民文化祭です。耳慣れない名前と思いますが、三浦朱門さんが文化庁長官をやっていてこの間辞めましたけれども、これは三浦さんが発案したものです。文化庁版の国体です。国体を文化版でやろうというわけです。

国体というのは主催県がありまして、そこへ各県が代表選手を派遣するわけです。それと同じように、文化的な芸術、いろいろ日本のものあれば西洋的なものもあるしで、そういうものでいろいろな内容がある。

そこで各地に分担してもらって、恐らく川越市にも大きな役割分担をしてもらわなければならないと思います。そういう概要で、一番最後はソニックスティーでやろうという寸法になっていきます。

これは東京が去年やりました。はじめてです。熊本が今年やっています。なかなかいいアイデアを出しているようです。非常にいいアイデアで、さすが熊本知事だと。熊本の知事は若い殿様知事ですから、なかなか人気はあります。

それから次に兵庫が来年、六十三年にやります。その次が埼玉県で四回

目です。この十月に庁内に、すでに国民文化祭推進室を設置いたしました。ほかの県のものを見学したりして、埼玉ではさらにいいアイデアを出そうということである研究をいたしております。

## 七、国際交流

それから国際交流の推進の問題です。先ほどもいろいろお話が出ましたけれども、これからはまさに国際化の時代だ。好むと好まざるとにかかわらず、国際化が進むということはだれにも異論がないと思います。自治体レベル、市民レベルの国際交流をはかることが特に必要だと思います。国と国との交流、外交というのはギスギスしたもので、駆け引きがありますけれども、われわれ自治体を頂点とする民間には外交問題も何もない。とにかく仲良くなって、意思が伝わればいいのであって、そして国の外交のバックアップの役割も占めると思います。

そういう意味で埼玉県では、最初から国際交流をはかつております。私も自身も英語の勉強のためにNHKのラジオ放送を毎朝聞いているんです。

それから私は中国にいましたから、中国で字引一つを頼りにして、戦争中主計で暇だったので、中国の原書を読みました。原書といっても小説ですが。当時の紙はひどいものでしたね。それを廃墟のなかから集めてきて、小説が一番いいと思って小説を読むことにしました。最初の内は字引と首っ引きでした。ところがだんだんしまいには字引がいらなくなった。字が同じですから簡単でして、だんだんそういうことになって、四十年たった今でも、まだその発音を覚えています。一年間みっちりやるとそういう

ものですね。

ただ、中国には四声というのがあります。四声ができない。会話らしいものがなかなかむずかしい。中国人はみんな逃げてしまつて、いないのですから、独学のほかないわけです。そういうことで私は中国語にも親しむことができました。

その両方がある程度、生半可だけでもできる。そういうことをみんなそれぞれの人が心掛ければ、だんだんと外国人となかよくなれるのではないかと思います。

埼玉県で姉妹友好提携を締結したのは、五十四年の十月二日にメキシコのメキシコ州と提携したのが最初です。この間大地震のありましたメキシコシティの北を取り囲んだあたりがメキシコ州です。

それから三年たつて、五十七年の十月二十七日、今から五年前ですが、ちょうど今日です。五年前の今日、山西省と締結をしました。浦和の私の公館で行いました。今、その五周年を記念して関根副知事が代表団長で中国に行っています。向こうからは向こうの副省長が今来ています。昨日もいろいろありましたけれども、向こうから文物展を持ってきて、大宮の博物館で今やっています。

そのほか素人の民間の舞踊団、伎芸をやる人たちが今来ています。二つ来まして、全部で三つの団体と今日、私はこれから帰りまして、セレモニーをやつて、レセプションをやるということになっております。

向こうには関根副知事が行つて、そのほかに県会議員団も行きます。それから民間の交流協会募集の二組が行きます。経路は違いますが、最終的に今日、みんな太原で集まる。八十人ぐらい集まる。そして向こうでセレ

モノをやって、レセプションをやるということになって、同じ日に両方でやるということになっております。

それから一番遅く提携したのが三年前、五十九年十月二十七日、クインズランド州です。これはオーストラリアのクインズランド州。これもコアラをもらいたいということも一つ、私の計算にありました。なかなかめったにあればもらえないんですよ。(笑)

埼玉のイメージアップのためにも、やはりコアラがあるのとないのとはだいぶ違うんです。

クインズランドは来年、国際博をやります。クインズランド、ブリスベーンで。埼玉県ではさいたま博。こっちは二百万人ぐらい、向こうは一千万以上の入場を見込んでいると思います。ちょっと格が違いますけれども、向こうでも埼玉県は国扱いにしてくれるそうで、埼玉デーを一日、来年八月何日かにやるそうです。半年間のようです。向こうは四月一日から半年間、こちらは三月十九日から七十二日ですから短い。そういうことです。

国際交流にしましては、日本語国際センターというのを誘致するのに成功しました。国際交流基金によりまして、浦和に設置することになりました。土地は埼玉で提供するという事で、横浜と競争して勝ちました。こちらへの誘致に成功した。北浦和の駅からすぐです。至便なところを提供しましたので、向こうでもOKということになりました。

これは港がなくても、必ずしもウイークポイントではない。私はさっきの大宮・成田間のリニアを、大宮始点で決まったら、通関も何もそこでしてしまうように、エアターミナルをつくりたい。

エアターミナルをつくって、そこで通関してしまえば、サーッとそれに

乗り、成田へ着けばサーッと飛行機に乗れるというようにしたい。

そうすれば大宮には、埼玉には空港がなくても、空港の役割を分担することができないかというのが私の考え方で、執念を燃やしているわけです。

それから先ほども触れましたソニックシティーです。大宮の駅前のソニックシティー。これを国際交流の拠点にしたい。これからどんどん、あそこで国際的なイベントをやりたいと思っています。

そういったようなことで、これも国際化に役立つものだと思います。

## 八、むすび

以上、二十一世紀を目指す本県の代表的な施策を紹介したわけです。これらの事業をしっかりと完成させることが埼玉県の二十一世紀の花を咲かせることになります。

皆さんにも一つ、郷土埼玉の発展のためにぜひご協力を願いたいと思います。

ところで、東洋大学は今年で百年です。百歳ですね。では埼玉県は今年何歳になるかご存じの方ございますか。埼玉県の誕生は明治四年の七月です。廃藩置県の詔書が出されたのちの十一月十四日、当時は旧暦でしたけれども、新暦に直すと十一月十四日になります。したがって、今年で百十六歳です。

当時埼玉県と入間県の二つの県が設置をされました。明治六年に入間県は群馬県と一緒にあって、熊谷県となりました。明治九年に熊谷県が廃止

されて、そこで正式に埼玉県に合併ということになりました。町村数は当時千九百余ありました。ずいぶんその後合併をしました。人口八十八万四千四人で、百万人に満たなかったんです。それが今、六百万人になりました。

県ではこの十一月十四日を県民の日と決め、毎年記念行事を開催いたしております。近くのいろいろな市町村の行事も県民の行事協賛事業ということで組み込んでもらっていますので、だんだんと県民の意識のなかに県民の日というのが定着しつつある。

それで毎年記念行事をしているのですが、今年はとくに趣向をこらしまして、ベートーベンの第九交響曲をやるんですが、私自身もやれということなので、目下練習を始めたのですが、なかなかおもしろい。第四楽章、ドイツの詩人シラーのアン・ディ・フロイデの『歓喜に寄せて』を目下練習中です。合唱のパートはバスでございます。

その最初の部分をリズムからではなくて、ちょっと恥ずかしいからドイツ語だけを申し上げてみます。

ダイネ・ツァウベル・ビンデン・ヴィーデル・ヴァス・ディー・モーデ・シュトレンク・ゲタイルト・アーレ・メンシエン・ヴェルデン・ブリューデル・ヴォー・ダイン・ザンフテル・フリューゲル・ヴァイルト。  
Deine Zauber binden wieder, Was die Mode streng geteilt; Alle Menschen werden Brüder, Wo dein sanfter Flügel weilt

これが例の歓喜のいいところですね。これをひとつ歌おうと思っております。ベートーベンの第九は人生の喜びを高らかに歌い上げたものです。

『歓喜に寄せて』という歌のように二十一世紀の埼玉県は恐らく七百万人

になっているだろう、その県民の一人ひとりがこぞって明るく、喜びと幸せに満ちた生活をおくることができるような郷土にぜひしたい。

これが埼玉県のビジョンでございます。皆さんのご理解、ご協力を重ねてお願いをいたします。

皆さんのご健勝と、東洋大学の今後のますますの発展をお祈りいたしまして、私の話、ちょうど五十五分、ちょっと過ぎました。うまくいきませんでした。

ありがとうございました。

#### 講師紹介

畑<sup>はた</sup> 和<sup>わら</sup>

明治四三年 埼玉県生

昭和九年 高文司法科合格

昭和一〇年 東京大学法学部卒業  
高文行政科合格

昭和十一年 弁護士登録

昭和二十六年 埼玉県議会議員連続二期当選

昭和三五年 衆議院議員連続四期当選

昭和四七年 埼玉県知事連続四期当選

#### 著書

「ベテラン知事になりたくない」  
「畑やわら ふだん着の発言」他